

皮膚疾患と漢方

大野クリニック 院長
大野 修嗣

【講師略歴】

大野 修嗣（おおの しゅうじ）

- 1947 年 埼玉県比企郡生まれ
- 1973 年 明治薬科大学製薬学科卒業
- 1980 年 埼玉医科大学医学部卒業
- 1980 年～1982 年 同大学病院にて内科研修
- 1982 年 同大学病院第 2 内科助手
- 1984 年 埼玉医科大学膠原病外来 および 東洋医学外来担当
- 1990 年 医学博士取得
- 1990 年～1991 年中華人民共和国 山西省太原市
山西省人民医院中医科へ 1 年間留学
- 1992 年 埼玉医科大学第 2 内科講師
(膠原病外来、東洋医学外来担当)
- 1996 年 埼玉県比企郡にて 漢方 大野クリニック開業
- 2001 年 6 月～2005 年 5 月
日本東洋医学会 副会長
- 現在 大野クリニック院長
国際東洋医学会 理事
明治薬科大学客員教授
埼玉医科大学第 2 内科非常勤講師
日本大学医学部非常勤講師

学会活動

- 日本東洋医学会 評議員・専門医・指導医
- 日本リウマチ学会 評議員・専門医
- 日本アレルギー学会 功労会員
- 日本内科学会 認定内科医

専門分野

内科、リウマチ・膠原病、アレルギー、漢方医学

皮膚疾患と漢方

虫刺されから重症の皮膚病まで
漢方の出番は多い

大野クリニック
大野修嗣

1. 虫さされの漢方薬

赤く腫れたら **十味敗毒湯** = 化膿瘡が皮下にあり排膿が期待できないもの
化膿したら **排膿散及湯** = 化膿性皮膚炎・化膿性扁桃腺炎の排膿

2. 疣贅（イボ）の漢方薬

薏苡仁（ハトムギ）

〔基原〕 イネ科ハトムギの種皮を除いた種子
〔薬能〕 主治浮腫也（薬徴） 利水滲出・清熱・排膿・健脾止痛
〔処方〕 **ヨクイニン錠** = 尋常性疣贅
桂枝茯苓丸加薏苡仁 = にきび 手足のあれ
麻杏薏甘湯 = 関節痛 神経痛 筋肉痛)
薏苡仁湯 = 関節痛 筋肉痛)
〔薬理作用〕 中枢抑制作用 筋弛緩作用 抗炎症作用

3. 尋常性痤瘡（にきび）

原因 **propioni bacterium acne** の感染 抗生物質で対応
発症・増悪因子 → 心身のストレス 生理不順・生理痛 性ホルモンの imbalance
便秘 過食

漢方薬

- ① のぼせ・顔面の痤瘡 → **清上防風湯**
- ② 生理痛・生理不順 → **桂枝茯苓丸加薏苡仁**
→ **当帰芍薬散**（冷え症・浮腫み）
→ **桃核承気湯**（便秘）
- ③ 化膿傾向 全身性・再発性 → **十味敗毒湯**
（化膿瘡が皮下にあり排膿が期待できないもの）
化膿が強い → **排膿散及湯**
（化膿性皮膚炎・化膿性扁桃腺炎の排膿）
慢性的・扁桃腺炎 → **荊芥連翹湯**

4. アトピー性皮膚炎

<皮膚の状態から漢方医学の「証」を読み取る>

皮膚の状態	証	漢方薬
発赤・熱感・充血・発汗	→ 熱証	→ 清熱剤を使う
蒼白・冷感	→ 寒証	→ 温補剤を使う
紫斑・静脈怒張	→ 瘀血	→ 駆瘀血剤を使う
茶褐色・かさつき(乾燥)	→ 血虚	→ 補血剤を使う
湿潤・水疱	→ 水毒	→ 利尿剤を使う

<アトピー性皮膚炎の治療の実際>

肌の状態	全身の状態	漢方薬
カサツキ	青年・成人・老年 乳幼児	温清飲 (皮膚の乾燥・ほてり) 柴胡清肝湯
発汗・湿潤	熱感 虚弱体質 胃腸虚弱	白虎加人参湯 (熱感・発汗・口渇) 補中益気湯 (全員倦怠感) 小建中湯 (下痢・便秘)

5. 皮脂欠乏性皮疹

当帰飲子 = 血虚(動脈系の循環障害=皮膚の栄養不足)
皮膚乾燥(カサカサ肌), 掻痒

6. 帯状疱疹

越婢加朮湯 = 麻黄・石膏・蒼朮の組み合わせで熱感・発汗・過剰分泌の制御
その他、炎症性関節炎、花粉症、汗アレルギーにも使用される

7. 糜爛性皮膚炎

黄耆建中湯 = 虚弱体質 腹痛 下痢 皮膚脆弱化・炎症に使われる
皮膚附属器の機能(皮膚の修復、過剰発汗の抑制など)を回復させる